



▲ レリーフ体験をする子供達

平成28年9月16日(金)から18日(日)まで、名古屋市中区栄のオアシス21で、恒例の「職人展」が開催された。伝統工芸に携わる48の団体、個人が実演出展した。

我々の愛知県板金工業組合のブースでは、例年通り銅板レリーフ製作体験、銅折鶴、はち丸君ストリップ販売に加え、三日間を通し、熱田・南支部小池浩氏から借用した銅打出しの般若面、金鯱西支部松代一郎氏から借

用したチタン屋根のモックアップ、大型の各種金属折鶴を展示した。

初日は松代氏がチタン折鶴を実演、鈴木準一氏が、新作・アルミ缶の風車作りを実演した。折鶴について松代氏によると、0.3ミリチタン板はステンレスより硬くロットにより破断し易いとの事。他にも250ミリの角の銅から折ったもの、カラスステンレスや1ミリ厚の鉛板の鶴も展示し、大きく見応えがあり好評だった。

鈴木氏の風車は、アルミ缶を縦にカッターで約13ミリピッチに縦長円弧状に切り込みを入れ、風を受けるよう反らした物で吊すことで心地良く回転していた。

二日目は松代氏の実演と担当支部によるアルミ缶利用の折鶴、とりわけ

瑞穂支部平松博文氏が寄贈されたミニ塵取りが好評で多数用意したにも関わらず完売となった。

最終日は、中川・港支部佐々木利浩氏によるミニじょうろの実演即売がメインとなった。板金の腕を競う全国大会に出場する佐々木氏の実演を目当てに来場するファンは多く、今年はミニじょうろ、銅折鶴等、多数お買上げ頂いたご婦人もみられた。本田幹雄氏の同色アルミ缶鶴の重ね吊り実演も来場者の目を引いていた。

秋雨前線の影響で今年は三日間を通し好天とは言えなかったが、谷倉名古屋連合会長陣頭指揮の下、午後6時成功裡に閉幕した。

浅井(中支部)



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

尾張名古屋の職人展開催



▲ 板金ブース風景

名古屋・尾張板金連合会 合同ボウリング大会開催

9月11日(日)全板国保愛知県支部、愛知県板金工業組合の共催にて毎年恒例のボウリング大会が開催された。

今年尾張板金連合会の担当により稲沢グラウンドボウルに組合員とその家族、協賛会社、総勢124名が参加し、午前9時半から開会式がスタートした。

まず今尾張板金連合会長、谷倉名古屋板金連合会長、続いて来賓代表として後藤副理事長が挨拶され始球式の後、各レーンで一斉に練習投球が始まりゲームスタートしフロアが賑やかになった。

約2時間程で皆2ゲームを投げ終え、トータルスコアで順位が決定した。



会場内にある会議室に移動後、参加いただいた協賛会社の方に挨拶をいただき、表彰式が行われた。多くの方たちに賞品が配られ、楽しい1日を過ごすことができました。

団体優勝 瑞穂支部

(上位3名の合計 1003)

男性個人

- 優勝 山口 真悟
- 2位 熊谷 和樹
- 3位 村上 政隆

女性個人

- 優勝 今枝由美子
- 2位 山口 鈴子
- 3位 西川 歩里

ハイスコア

山口鈴子 209

(その他各賞は省略)

協賛会社

(株)池田商店



▲ 団体優勝の瑞穂支部



▲ 女性上位3名 (左より山口、今枝、西川)



▲ 男性上位3名 (左より熊谷、山口、村上)

- (株)セキノ興産小牧店
- 神原(株)
- (株)メトローカケフ
- 初穂商事(株)
- 吉田金属(株)
- 神山商事(株)
- タカケン金属(株)
- (株)カネブ
- (株)田口鋳金
- (株)森口建商
- (株)吉川商会
- ハーツカネシヨウ(資)近藤商店
- 石原機械(株)
- (株)コウトク金属
- (株)モリマツ
- (株)野々山商店
- (株)角建材店 以上18社様
- 猪飼(津島支部)

カンボジア視察団③ 小学校訪問と 板金指導

2日目の朝7時30分にロビーへ集合出発し、車で走ること1時間半。午後

後に板金指導を行う「夢ホーム」に到着した。夢ホームは、両親が亡くなってしまうたり、出稼ぎや病気などの理由で恵まれない子供達が集団生活している施設で、現在は14人の子供達が生活している。

校長先生や子供達に挨拶し、調理場などの施設内を見学させてもらうと鈴木さんが作った物と思われるのたらいやじょうろなどが日用品として使われていた。入って右手前に鈴木さんが寄贈した板金教室があった。中に入ると道具の充実ぶりに驚かされた。2mの手動の折曲機やバツタ、折り台脚立などが置いてあり手道具もある程度はあったが日中でも停電になって

しまうせいか電気道具はさほど無かった。

施設の見学後、夢ホームを後にし、交流事業のため30分ほど車で走り、ローロ小学校へ移動した。生徒180人を前に小野寺理事長が「私達は日本から来ました。たくさん勉強してたくさん遊んで下さい。」と挨拶し、生徒一人一人にノートや鉛筆などが入った文房具セットを手渡した。学校には記念品として時計を贈呈し、職員室に設置してローロ小学校を後にした。



▲ 文房具を手渡す小野寺理事長

途中、昼食をとって再び夢ホームへと戻り、最初に板金指導の鈴木さんが亡くなった事を告げて全員で黙祷した。

そしていよいよ板金指導が始まった。生徒は10歳から16歳までの8人の男の子。亜鉛鉄板にて簡単に作れるよう事前に型取りしてきた「ちりとり」

を作製指導した。板金指導担当の津坂氏と伊藤氏より説明と注意点が話があり指導へと入った。鈴木さんの指導のおかげもあって、経験者もいてハンマーやでんがく等の使い方も上手とても器用にちりとりを作っていく。そのやる気と情熱に小野寺理事長と望月団長も指導に加わり、ケガも無く



▲ ちりとりの作製指導

全員ちりとりを完成させた。早い子は自ら2個目を作製したいと志願してくる程で、2個目を作製する時は指導無しで作りあげる子もいて、カンボジアの子供の器用さ、一生懸命さ、飲み込みの早さに驚いた。

その頃、調理場では夕食のカレーライス作りが順調に行われていた。カレー調理担当は津坂氏の奥様理沙さん。理沙さんは管理栄養士の資格を持っていて普段も学校給食を作っている言わばエキスパート。4月3日の県板青年部幹事会後に行われた花見会では、予行演習としてカレーを作り、今日の本番に備えてきた。理沙さんを中心に夢ホーム



▲ 夢ホームにて時計の寄贈

ムの子や女性教員らによっておいしそうなかレーが着々と出来上がった。生徒達への板金指導後の教室では、夢ホームにあった形がゆがんでハゼが外れてしまったたりいや潰れてしまったちりとりなどの補修が行われた。たらいに取っ手を付ける際にはハンダごてを炭で熱し、理事長自らはんだ付けを行い、その技術の高さに皆、感心した。最後に生徒達と作製したちりとりを手に記念撮影をして、夢ホームにも記念品の時計を贈呈設置した。程無くしていよいよカレーが出来上がった。小野寺理事長や望月団長がカレーをよそい、子供達

はとてもうれしそうだった。全員が着席し、望月団長が挨拶して夕食のカレーを全員で食べた。

その後は全員で後片付けをして夢ホームの子供達ともお別れの時。中には別れを惜しんで涙を流す子もいてこちらでも思わず泣けてしまった。

涙をぬぐいながらホテルへと移動しロビーにて解散。カンボジアのカジノへ行く人や部屋でビールを飲む人などそれぞれに無事2日目の事業が終わった。

赤池(豊田支部)

次号「3日目・4日目カンボジア観光記」へと続きます。

編集後記

紙面の都合にて9月度の動き・編集後記はお休みさせていただきます。



九月二十七日(火)
五三〇号 編集会議
広報委員 六名
午後二時半開会

五時閉会